

# 地歴公民(世界史) 立命館大学 全学統一方式 (2/2実施)

## <全体分析>

試験時間 80 分

### 解答形式

記述空所, 記述設問

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問4題, 小問50問で昨年と同じ。80分では時間が余るであろう。

昨年度の同日程と比べると, やや易化した。

### 出題の特徴や昨年との変更点

中国史2題, イスラーム史1題, 複合問題1題

### その他トピックス

特になし。

## <大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述空所 記述設問	李泌の事績	唐代の宰相である李泌の事績をテーマに, 政治や文化について問う問題。Aの「三省」は「中央官制の最高機関」という言葉から答えなければならず, 受験生は迷うだろう。	標準
II	記述空所	1970年代の中国	1970年代の中国で起こった出来事を扱い, 関連する事項を問う問題。Bの「日本」は文章中に複数回出てきており, これを空欄で問うのは受験生を戸惑わせるであろう。	標準
III	記述空所 記述設問	メフメト2世の生涯	オスマン帝国のメフメト2世の生涯をテーマに, 関連する事項を問う問題。[2]の「ワラキア公国」はやや難しいか。	標準
IV	記述空所 記述設問	不自由身分の労働力	奴隷など不自由身分の労働力をテーマとした問題。[4]の「ダホメ王国」は受験生の盲点になりやすく, 点差がつくであろう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

一部に判断が難しいものもあるが, 教科書を中心にした学習で十分に合格点に達することができる。これに加えて山川出版社『世界史用語集』などを用いて正確な知識を身につけておきたい。ほとんどが記述式であり, 中国史は必ず出題されるので, 歴史用語を漢字で正確に書けるようにしておくこと。また, 文化史も頻出なので対策を怠らないようにすべきである。